墨翔

発行　兵庫県水墨画協会
理事長　盛　静山
事務局　神戸市北区筑紫が丘5-5-8
井上宣子方
TEL&FAX 078(583)2793

二〇一五年の公募展
（水墨画発展を目指して）

盛　静山

兵庫県水墨画協会の趣旨のもとに十年水墨画発展の為にその道を歩み昨年十周年記念展が盛大に終了し、水墨画の文化に一頁の足跡が残った事でしょう。

今年から心新たにこの主旨を大切にして、会員一同水墨の輪をより深く広めたいと念願して一歩前進する展覧会にしたいと実行しました。

関東中心に上海水墨画界と深い関係のある杉谷隆志先生と墨美会役員の作品、全国的に活躍しているNPO法人アジア文化芸術連盟の李鴻儒先生と役員の作品、協会の役員作品と幅広く流派を超えた多種多様の価値ある作品を展示しました。

水墨画の本質とその真意と美しさ、楽しさを皆様に理解していただきたいのです。

公募内容も三部門にして、第一部は10号以上の大きさの創作作品、第二部は初歩の方からの自由作品、三部は3歳から中学生までのジュニアの作品を募集しました。出品点数も多く初日から来場者も満員でした。

会期中は理事の席画やワークショップの水墨画体験教室を開き水墨画発展向上の為に会期中の五日間活気の中に終了しました。

会員、役員のボランティア精神の協力にお礼申し上げます。

あらたなる十年にむけて

いのうえ　のぶこ

今年は、戦後七〇年、荒れた土地に文化の芽が復活し、そして戦後の一時代を築きあげてきた。日常における自己の修業又は研鑽の為の伝統的な習い事、日々のおけいこ事が、すたれ、パソコンやスマホなどに取ってかえられ、伝統的な分野が廃れることは、心細いことこの上なしの心境である。この十年を一緒に築きあげてきた仲間も十歳年を取ったことになる。兵庫県水墨画協会が、初回から、力を入れている、幼児から中学生までのジュニアの子供たちが、墨の魅力に目ざめてくれたらと願っていると、同時にそのジュニアのパパやママの世代も少しは目を「墨」に向けて頂きたいものである。毎年三月に県公館で開催される「伝統文化体験フェア」に親子で参加し、墨にふれて頂きたいと思う。

絵を描く手段として、クレパス、色鉛筆、水彩絵の具などの代わりに墨で絵を描こう！

十年前に、市展、県展で水墨画部門がなかったのが、協会を設立する大きな動機の一つであった。今も切に水墨部門を設けられることを願っている。と同時に先人から伝えられた世界に誇るべき水と墨の世界が忘れられないように、次の世代にしっかりと伝えることを大切にしたいものと思う今日この頃である。

研修　名品を観賞して

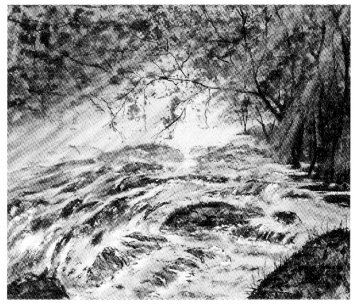
小谷　鳴宝

去る四月二十九日に研修が行われた。大谷美術館で催されていた「名品とともに　水墨を楽しむ」を観賞するというもので、会員やその家族など約七十名が参加した。この展覧会は水墨人口が多いことで知られる富山県の水墨美術館の収蔵品四十二点が展示されたもので、越智裕二郎館長（当協会審査員）から解りやすい解説もあった。

紫峰・玉堂・華岳など、日本画家の多くがある頃から墨一色の作品を多く描くようになった。私には今回観賞したそのどれもが、写実ではなく意を写しているよう感じられた。華岳の作品を前にした時は「華岳の世界を理解できるようになりなさい」と言われた亡師の声が再び聞こえたような気さえした。写意というのは水墨画の要であると思う。それを高名な日本画家たちも行っていたとすれば、もう「水墨画」とか「日本画」とかいう呼称の枠は必要ないのかもしれないと思った。ともあれ、水墨の幅の広さを感じることができた有意義な研修だった。

兵庫県水墨画協会大賞
柳井　卓子

兵庫県知事賞
稲継　永治



神戸市長賞
林　幸夫

審査員の講評

女子美術大学
教授　**橋本　弘安**

私は日本画を制作し大学で日本画を指導して居りますが、大学でも最近少し水墨を取り入れ韓国で勉強された先生に指導いただいたりもしています。その様な視点の中で審査にあたらせていただきました。大賞の「淡河の野原」は草原を線描でていねいに描かれたよい作品でした。兵庫県知事賞の「朝の渓流」は淡彩で水の流れと光をさわやかにとらえていました。神戸市長賞の「憩い」はユーモラスな光景が印象的ですが、背景の墨彩が空間をきれいに作っている作品と感じました。「韻」と題された滝とその流れを描いた作品は水の流れの強弱と遠近がきれいに描写されていました。「霧の湖畔」は枝の丁寧な描写と墨の黒が印象的でした。「屋久島」の力強い樹根をかかれた作品は、前景の描写が魅力的な作品でした。「おもてなし・Ⅱ」は洋風のシャレた感覚に面白さを感じました。「墨の華」と題した作品はその墨の濃淡が美しい作品でした。大作の「暮雪」は雪の中を力強く歩む様子とその雪の描写が優れた作品でした。「甍の波」は上からの街並の描写ですが点景で子供が描かれた楽しい作品でした。春桜の咲く川辺を描かれた淡彩の作品「川辺」は春を感じさせるよい作品でした。ほかにも力強い大作筆使いに楽しいリズムを感じさせる作品など佳作を見せていただきました。これからに繋げて頂ければ有難く思います。

全国水墨画美術協会
副会長　**陳　允陸**

全体的に作品の雰囲気では昨年と違って、伝統的な表現から現代的な作風まで内容が豊富で質が一段と高くなってきたと印象をもちました。上位入賞作品を選ぶ時審査員たちが同じ意見でスムースに入賞作品を決めました。

上位入賞作品で、大賞を取った作品「淡河の野原」は繊細なタッチで細かく描写されて、特に線の表現は良かったので評価されました。画面の処理でかなり工夫されて、迫力がある作品でした。神戸市長賞の作品「憩い」は独特の表現でユニークな作品でした。全体の雰囲気は良く、墨色はきれいでした。両方の作品とも完成度は高いです。ほかの入賞作品では、それぞれの特徴があり、筆のタッチと墨の表現がよくて、安定感がある構図を取って水墨画の良さがはっきり出ています。

今回の審査で二つ感じたことがあります。一つは余白です、水墨画では余白は大事です。画面に描きすぎないように余白を残して見る人に想像させる部分は必要です。今回の作品で技法上で、かなり上手に描いている作品がありますが、画面にいっぱい描いて余白はなくて、ちょっと残念でした。

もう一つは水墨画では落款は大事です。落款の位置と大きさは作品を左右されます。落款も作品の一部と考えて欲しいです。全体の構図を考えてバランスが良く落款して下さい。今回の作品の中で何点かは作品が良く出来て、落款の位置と大きさが悪くて入賞することはできませんでした。今後少し工夫して欲しいです。

神戸市立小磯美術館・ゆかりの美術館
館長　**岡　泰正**

伝統あり、革新あり、水墨と言えども多彩な表現の力作が並んで見ごたえがあり、選びごたえがあった。実力と独自の新鮮な視点が備わった作品を推した。南画的方向の作品は、署名、賛、印象への気づかいを絵画と同じく集中し熟考しなければならない。游印についても考慮していただきたい。写実的表現は、写生からはいり、写生からでて、大気と光の追求をめざすことをさらに望む。大賞の「淡河の野原」は、密度と右景と左景との諧調が、うまく融合している。細部の筆使いがもう少し伸びやかであれば、さらに生動感を生みだしただろう。知事賞の「朝の渓流」

は、水と光がたくみに表現されていて心地よい。光の描写が新しい。樹木の逆光が表現できればさらに美しいだろう。神戸市長賞「憩い」は、くだけた画題をまじめに造形したセンスと処理のたくみさに魅かれた。熱燗の湯気がたち上がるのは、南画のユーモアと言ってよい。一種の幻想風景を写実味を生かして描いた意欲作。議長賞の「霧の湖畔」は墨の使い方をすべてこころえているプロ級の作品。樹木の幹の表現にさらなる工夫があればと惜しまれる。個人的には「アルハンブラ宮」、「静寂の回廊」、「墨の華」、「屋久島」に魅かれた。いずれも墨の五彩を感じさせる華やかな作品であって印象に残った。さらなる挑戦を期待する。

受賞の喜びの言葉

尼崎市　林　幸夫

定年後にボケ防止の為に水墨画、で今ではすっかり、日々の生活の中で生きついております。大きな賞を頂、おどろいています。これからも賞に恥じない様、精進して参りたいと思います。

吹田市　竹内　真弓

初の大きな賞、送られてきたハガキを見て、ビックリ・・・・・主人もとても喜んでくれました。これからも、先生方の絵、皆さんの絵を参考に頑張りたいと思います。

大阪市　入口　加代子

出品二度目でこの様な大きな賞をいただき、驚きと喜びでいっぱいです。水墨画との出会いは十年以上も前になりますが、奥が深くてなかなか上達いたしません。バラの絵は東日本大震災の時、被災地の福島の仮設住宅の方と知り合い、少しでも元気になっていただきたいとハガキに描いて送り続けました。その事が今回のこの喜びにつながっているのではないかと感謝しています。

川西市　蔵本　千恵子

幽玄の世界を醸し出す墨の奥深い世界に魅せられ、水墨画は心のよりどころとなり、日々の生活に元気と自信が湧き、明るく暮らせることに喜びを感じています。まだまだ未熟で出来ていませんが、これからも少しずつ精進して参りたく思っています。

神戸市　中山　和夫

思いもよらない「特選」の受賞に驚き又感謝しております。これを糧に一層の精進と、知人に次回も見に来て貰えるよう、心新たにしております。墨に悩む小生ですがよろしくお願いします。

三木市　高橋　富子

水墨画に入門してから十三年になります。牡丹をかきたいとの思いもあって勉強して来ましたが、このところ牡丹ばかり描くようになっています。写生も今までより多く熱心にしています。いろいろの画も教わりながら私の代表作は牡丹だといえる様になりたいと精進していきたいと思います。その意味で今回の受賞はとても励みになりました。

三木市　吉田　秀子

人生！生きていてよかった事、実感！致しました。学習に励み大きな賞を受賞された方々との会合にも出席し、皆様方からの、オーラ！エネルギー！を戴きました。

席画を終えて

柏原　月山

席画の経験は過去にも有り緊張する事も無いが来場された方が水墨画への興味を湧かす為の工夫に試行錯誤した。冗談も交え面白く秘技の紹介や筆使いを披露した。今回は、水墨画の本来の手順を踏まず全く逆の発想を試みて、白居

水墨画と私

寺西　恵心

南画家・安田虚心先生に入門させて頂いてから、まる十三年が経ちました。蘭の一葉から教えて頂き、ときには優しく、ときには厳しく教えて頂いた事をなつかしく思い出します。

先生が平成二十一年に亡くなられ、私は一人で作品と向きあう事となりました。それまでは何かというと先生におたずねして、ご指導を頂いたり、時には筆を入れて頂いたり・・・・・。でも今はそれがありません。描きながら心細く思う時もありますが、先生がご存命の時おっしゃっていた事が、今になってわかる、という事がよくあります。

「自分の絵を作っていかなくてはね。」

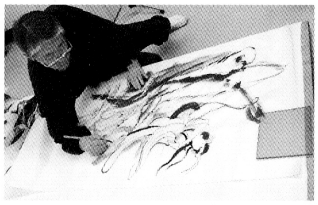
「僕から卒業しないでくださいね。」

相反する事のようですが、自分と向きあいながら水墨画と向きあいつづけていくという事なのではないかと考えています。

両親の理解もあり、また先生方や先輩方との良いご縁を頂き、今こうして絵を描きつづけていられる事に感謝しながら、これからも精進していきたいと思っております。

易の「燕詩示劉叟」を模して燕を雉鳩の親子の想定で描き「鳩詩」とし其の詞を画賛とした。

又二作目も白居易の「楊柳枝詩」を基にその詞の内容を其のまま絵にした。既に一時間を費やし気が急かれ詩文は書かなかったが楊柳や雪柳を描き女性の舞姿を添えた。柳と共に靡く髪や衣装を一気に描いた時観客の声が私の耳にも届いた。此の女性の舞姿は詞を読んだ後に私が見た夢見の姿であると初めに話したので真近に座って居た男性から「ええ夢見ましたな」と一言、又他の人からは「楽しみ乍描いてはるね」と言われた。「絵はいつも楽しみ乍描かなあきません」と答えた。水墨画は特に巧みな技より神から授けられた気と己の真の心を表現することに専念する事が大切であると締め括った。



ワークショップ

宮田　芳数

公募展開催中の六月十三日(土)に水墨画を体験するワークショップが四〇一号室で開かれ初心者の皆様に水墨画の基礎を体験していただきました。

宮田・杉野理事が指導を、そして寺西・南野評議員がお手伝いで、皆様には「竹」を描いてもらいました。

二十名ほどが参加され、中には長時間筆使いを熱心に勉強される方もあり、水墨画の魅力に取りつかれた様子でした。

水墨画の理解と更なる普及を期待します。

兵庫県水墨画協会 秀作・選抜展in姫路

杉野　柏蓉

兵庫県水墨画協会の公募展での秀作・選抜作品を昨年のin三木に続いて、今年はin姫路で十一月九日より十一日まで開催しました。

会期中の来場者は約三〇〇名でした。

次回、平成二十八年の巡回展は尼崎市で開催する予定です。

伝統文化体験フェスティバル

下野　柏芦

兵庫県芸術文化協会主催で毎年、伝統文化体験フェスティバルが兵庫県公館で行われています。色々な分野で楽しい催しがあり、兵庫県水墨画協会も参加しました。

申し込みをされた子供達、大人の方も集まって、墨のすり方、竹・バナナ・魚等の描き方を協会のボランティアで手ほどきさせていただきました。最初は墨のつけ方等で迷っていた方々が、一枚二枚と描いていくうちに、だんだん濃淡も上手になり十枚もあっという間に描き終わり、まだまだ描きたいとがんばっていました。楽しいと喜んでくださり、時間が足りないくらいでした。子供達が墨の魅力に興味を持って楽しんでいる様子なので、私たちも嬉しく思いました。この時の作品は原田の森で協会の公募展のジュニア部門に出品していただき展示しました。見に来られた方々も、子供達の作品はすなおで力をもらった感じがすると見とれておられたのが印象的でした。

展覧会場でアンケートをいただきました

◆◆　アンケートのまとめ　◆◆

- ６０代、７０代の方の回答が多かった。
- 画題は山水を好む方が多かった。
- 新聞を見てという方が複数あった。
- 神戸市中心に、その周辺の方が多かった。

◆◆　アンケートでのご意見　◆◆

- 修正の利かない水墨画をかくも見事に描く技量に感服するばかりです。
- 墨の濃淡が好きです。
- 素晴らしかった。次回楽しみにしています。
- 受付の親切さや、親しみ深い対応が良かった。
- 作者の目指したもの、ちょっとしたひとことがあるといいかな・・・？
- 作品が密集して飾られていなかったのでみやすい。自分の思っている水墨画と異なる描き方も多々あることを知った。子供たちも楽しそう。
- たくさんの作品に圧倒されています。姫路へ行ってゆっくり見たいと思います。いろいろな作品に出会い元気をもらっています。
- 席画・・・真面目な目線が心を打ち、明るい作品に好感を持ちました。
- ワークショップ・・・筆づかいが難しいが子供の方がのびのび描けるようですね。

編集後記

これからも皆様に喜んでいただける内容にしたいと思っています。原稿にもご協力お願いします。

編集委員